

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都市 】

学校名【 京都市立太秦中学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V（複数選択可）
2 実施対象者 (学 年 ・ 人 数)	第1学年 （6クラス・192名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ 総合 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目 標 (ねらい)	多様な体験談等を聞く中で他者に対する先入観に気づき、障がいの有無に関わらず、相手との違いを知り、対話を尊重することの大切さを学ぶ。そして、学習したことをもとに自分の行動に移すことができるようになる。
5 取組内容	○手話教室  ○本校教員によるオリンピック・パラリンピック体験談（講演会） ○ガイドランナー体験（体育の授業で実施） 

	○堀井聡太（デフリンピック サッカー日本代表）による講演会  ○車いすバスケットボール選手による講演会 （車いすバスケット体験、実演を交えた活動）  ○まとめの学習「パラリンピアンからバリアフリーを考える」 （国際パラリンピック委員会公認教材『I'm POSSIBLE（アイムポッシブル）』を活用）
6 主な成果	・障がいのある人を身近に感じる生徒がふえた。 ・障がいのある人とコミュニケーションをとって、その人に必要な関わりを持つことが大切だと思う生徒がふえた。 ・ほとんどの生徒が、施設のバリアフリー化だけでなく、それと人々の意識や態度が相まって、真のバリアフリーになることに気づくことができた。またその中で、自分たちの行動がより良い社会をつくることになることを理解できた。
7 実践において工夫した点 （事業の特色）	・堀井聡太さん（デフリンピック サッカー日本代表） ・車いすバスケットボール選手 ・坂野晴男さん（元日本代表コーチ） が地元にいってしまったこと。
8 主な課題等	特にありません
9 来年度以降の実施予定	車いすバスケットボール選手による講演や体験を予定しています。